



Impressive TOIN 女子サッカー一部報告 Impressive TOIN

大阪高校体育連盟新人大会

高体連三連覇達成

大商学園に3-1で勝利。男子とアベック優勝を果たす。

平成19年度大阪高校新人サッカー大会〈女子の部〉決勝は2月24日長居第2陸上競技場で行われ大阪桐蔭高校は大商学園を3-1で破り、春季、秋季に続いて3連覇を達成した。同時に行われた男子決勝は大阪桐蔭男子サッカー部が近大附属を破り史上初の男女アベック優勝を果たした。

大阪桐蔭高校女子は2月3日準決勝で合同(箕面自由学園・成蹊女子・帝塚山学院・松原・東住吉総合)を7-0で破り決勝に進出、秋季大会に続き大商学園との決勝となった。柴田のゴールで先制したものの後半開始直後に追いつかれ苦しい展開となったが、齋藤、柴田のロングシュートで突き放した。

◇準決勝(2月3日、東住吉総合高校)70分ゲーム

大阪桐蔭高校 7-0(前半 5-0)合同

【得点者】佐々木、柴田 2、佐藤 3、宮本
【得失点】6 分佐々木、18 分、21 分柴田、22 分、25 分佐藤、50 分宮本、53 分佐藤

平成20年度全日本高校女子サッカー選手権大会のシード権がかかる新人戦が開幕した。なんとしても上位2位に入りシード権を獲得したい。大切な初戦は大雨となった。最悪のグラウンド状態で本来のパスサッカーが発揮できなかったがDF佐々木の先取点で優位にたち佐藤のハットトリック(1試合3得点)等で圧勝した。

◇決勝(2月24日、長居第2)70分ゲーム

大阪桐蔭高校 3-1(前半 1-0)大商学園

【得点者】柴田 2、齋藤
【得失点】12 分柴田、37 分失点、54 分齋藤 69 分柴田

男子の決勝に合わせて行われた決

勝は多くの観客を集めて行われた。チームに与えられたロッカー、音楽とともに選手入場など本格的な演出に加え、高校からはチアリーダー部が来てもらい、男子サッカー部の応援も加わりホームゲームのようであった。

前半は風下に立ちFW(フォワード)からプレッシャーをかけた。主導権は大阪桐蔭が握った。前半12分右サイド佐藤の突破からボールを受けた柴田が見事にゴールを決め先制した。その後も攻め決定的なチャンスをつくりながらも追加点を奪うことができなかった。後半立ち上がりは勝ちを意識したのか動きが硬くなり押し込まれた。大商学園FK(フリーキック)のあとゴールキックのつなぎをつけこまれ失点した。同点に追いついた大商学園は動きが良くなり大阪桐蔭は風上に立ちながらもなかなかゴールを割ることができなかった。12分CK(コーナーキック)の跳ね返りを齋藤が25mのロングシュートを直接ねじ込み勝ち越し点を上げ再び大阪桐蔭ペースとなり試合終了間際のロスタイムに再び柴田が30mのロングシュートを決め引き離した。

新しいシステムを試し成功するかは心配な面もあった。いい形が作れ、試合を支配しながらも得点をあげられなかったことが試合を苦しめた。しかしボールキープ率が高いゆえにチャンスは多かった。そんななかですばらしいシュートが決まり勝つことができた。

高体連大会は春季、秋季、新人戦の3大会あるが大阪桐蔭は2007年度のすべての大会で優勝した。

関西高校リーグ1部昇格

関西高校女子サッカーリーグ1部2部入れ替え戦が2月16日京都聖母学院グラウンドで行われ昨年11月に行われた2部で準優勝となった大阪桐蔭

高校は京都聖母学院を10-0で破り1部昇格を決めた。

◇入れ替え戦(2月16日、京都聖母女子学院高校)70分ゲーム

大阪桐蔭高校 10-0(前半 4-0)京都聖母学院

【得点者】佐藤 3、柴田 3、六車、古木、齋藤、オウンゴール

【得失点】14 分佐藤、18 分オウンゴール、27 分、30 分佐藤、40 分、41 分柴田、53 分六車、65 分古木、66 分柴田、69 分齋藤

関西の高校で行われるリーグ戦で大阪桐蔭高校はついに1部に昇格した。入れ替え戦は勝たないといけないためプレッシャーがかかった。開始から守備的な布陣に戸惑ったが、守備ラインの位置を変更してからは相手コートにスペースができ14分に得点した。硬さが取れたのかテンポの良い攻撃ができるようになり18分には相手のオウンゴールを誘い2点をリード、さらに佐藤が続けさまに2点を入れ試合を決めた。

関西高校リーグは11月に行われる。日ノ本学園など関西の強豪と試合ができさらに強化ができる。

なお同じ日に行われた京都橘高校(1部下位)と大商学園(2部優勝)は大商学園が勝ち大阪のチームがそろって1部昇格を決めた。

藤枝順心遠征

2月17日大阪桐蔭高校は静岡県藤枝市にある藤枝順心高校に出向き練習試合を行った。藤枝順心高校は2006年度高校女子選手権で優勝した強豪校である。7時に高校を出て関が原で大雪に見舞われたが12時過ぎに無事到着した。強風と硬い土のグラウンドで戦いにくかったがその悪条件でも藤枝順心の選手はボールコントロールが上手く、なかなか思うような試合ができなかった。

日帰りの厳しい日程だったが藤枝順心のすばらしいプレーに非常に学ぶことがあった。

【練習試合結果】

▼2月17日(日)藤枝順心高校グラウンド 2-7 藤枝順心高校(30分5本)